

下野市立国分寺中学校

1 学校課題

研究主題 「自己を見つめ、主体的に学ぶ生徒の育成」
～互いの考えを伝え合い、自己の考えを広げ深める指導の工夫～

2 研究計画

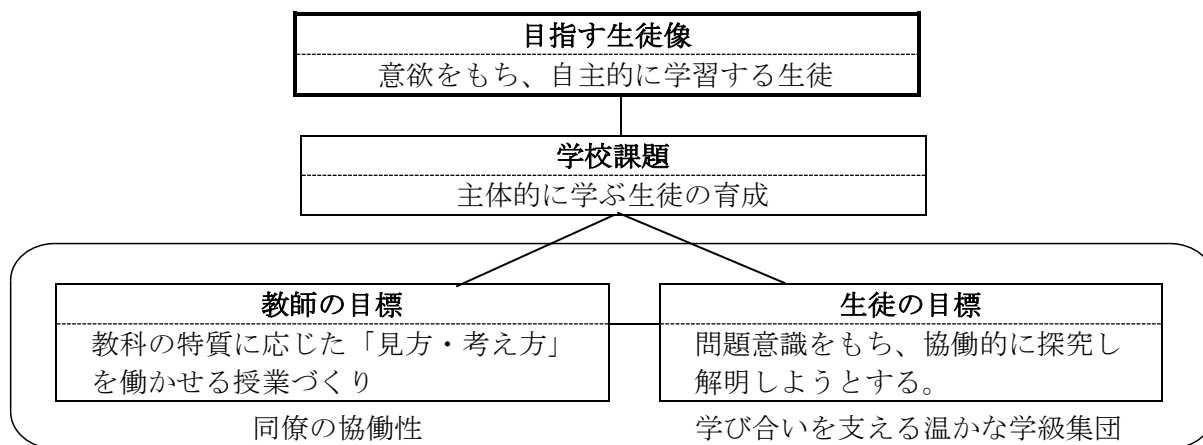
(1) 研究主題設定の理由

「主体的な学び」について、中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月）では、授業改善の視点の一つとして次のように示されている。「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』が実現できているか。子供自身が興味を持って積極的に取り組むとともに、学習活動を自ら振り返り意味付けたり、身に付いた資質・能力を自覚したり、共有したりすることが重要である。」とある。

本校では継続して「学びの共同体」の理念に基づいた授業実践を重ねており、ペア学習やグループ活動を取り入れている。そのような学習活動の「互いの考えを伝え合う」場面において、「ジャンプ課題（発展的課題）」に対し、挑戦しようとする生徒がいる一方で、何が分からないのかを説明できずにいる生徒も見られた。また、「学び合い」の中で、話題が広がったり深まったりするような質問の方法が分からずに、話が止まってしまう場面もあった。

そこで、自分の考えを他者と比較して聞くことで共通点や相違点に気付かせ、フィードバックできるような発問を考える。そして、ある時は自分の考えの視点を変え、自分の考えを広げたり、ある時は、課題への疑問をもつのをきっかけとして、更に考えを深めたりできるような学習活動を設定する。このような活動を学習活動に位置付け、主体的な学びへと繋げることで研究主題に迫りたいと考える。

(2) 研究の構造図



(3) 研究のねらい

学校課題に基づいて、以下の点について、実践・検証をすることで今後の学習指導の向上を図ることをねらいとする。

- ・多様な他者との学び合いを大切にした対話場面の設定
- ・「自己を見つめる」場の設定。自己の考えを確認できるような発問やワークシート、確認テスト等の工夫
- ・深い学びの成立のための振り返り（毎時間の振り返り、単元や題材のまとめりとしての振り返りなどの工夫）

3 研究内容

(1) 「学びの共同体」の理念を基にした授業づくり

①主体的な学び ②対話的な学び ③深い学び ④教師同士での学習観の共有

特に、③では「ジャンプ課題」を設定することで、「伝え合い」を必然とし、④では「協働（小グループ活動）」を主体として「表現の共有（対話）」を有効に活用することで、生徒の学びを深化させ、質の高い学びを成立させることを目標とした。

(2) 同僚の協働性

教師全員が授業を見せ合い、教科に関係なく日常的な授業を他者に開き、自分の授業の参考とした。（一人一公開授業の実施）

(3) 温かな学級集団を支える教師と生徒とのよりよい関係づくり

教師が、授業や学校生活において生徒の気持ちを共感的にとらえ、ケアを軸とした指導を行った。

(4) 授業研究会の充実

今年度は、3回の校内研修（自主公開研を含む）を行った。

月	実施内容 および 授業研究会（授業、協議、講話）を通して
4	学習指導における共通理解
9	第1回校内研修会 S&Uコラボ事業 【3年道徳】ゴリラのまねをした彼女を好きになった（B—（8）友情・信頼） ・教師からの問い返しにより、思考が深まった場面が見られた。 ・終末が導入の考えた内容へと戻されたことで、1時間の授業の流れが見えた。 ・板書の内容が生徒の思考の整理に役立っていた。
1 1	第2回校内研修会 S&Uコラボ事業 【2年音楽】日本の音階を使ってまとまりのある旋律をつくろう ・教師の発問が生きていた。→ 生徒の活動の変容が見られた。 ・中間発表があったことで、更に他者との比較ができ、活動が活発になっていた。 ・ペア学習をしている時の活動が止まってしまう生徒が多数いるときには、教師一人の支援では、苦しい。学び合いのグループで助け合えると良い。
1 2	第3回校内研修会 自主公開研究会（全クラス公開授業） 【焦点授業1年理科】物質の姿とその変化 【講話】「探究と協同による学びのイノベーション」 ・「ジャンプ課題」が生徒の思考の深まりに生きていた。 ・一人になっている生徒がいない。温かい雰囲気のある学級。素直でまっすぐに学びに向かっている。 ・分からないことを積極的に調べ、主体的に解決しようとする姿が見られた。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

年間を通して、「主体的に学ぶ生徒」を育成することを意識し、様々な実践ができた。今年度は、課題に応じて、学習形態を工夫するよう、教員間で共通理解を図った。課題の提示後、すぐにグループで話し合うのではなく、まず個人で考える時間を確保し、自分の意見をもって、「学び合い」の対話に参加することで、生徒は自己を客観視し、考えを広げることができた。

(2) 研究の課題

今年度、課題として挙げたものは「自分の考えを言語化すること」であった。学習内容によっては、自分の考えを広げ、深める以前に、生徒自身の考えが曖昧であり、「学び合い」になっていない場面が見られた。来年度は、教師が思考をスモールステップ化して視覚化するなどして認識させたり、思考を具体化して生徒の発話を導いたり、机間指導をしながら、個別にフィードバックを行って思考をアウトプットさせたりして、教師の支援の技術力を上げていく必要がある。